

家族 LINE が子どもの社会性及びストレス過程に与える影響

—共感性とストレスコーピングに着目して—

氏名 長谷川 千陽

(駿河台大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻 修士課程 2年)

指導教員 近藤 育代 准教授

キーワード : 家族 LINE, 共感性, ストレスコーピング

問題と目的

子どもが抱えるコミュニケーションの困難には、社会性の未熟さやストレス対処が影響していると考えられる。

社会性の向上に重要な要素である共感性には、視点取得・共感的関心・個人的苦痛・ファンタジーの4因子があり(Davis, 1980; 長谷川ら, 2009), 視点取得と共感的関心は向社会的行動を促進し, 個人的苦痛は向社会的行動を抑制する(長谷川ら, 2009)。

一方, ストレスの低減に重要な要素であるストレスコーピングは, 問題解決・認知的再解釈・情緒的サポート希求・回避的対処・感情表出の5因子があり(杉山・児玉, 2010), 積極的なストレスコーピングを促進するか回避的なストレスコーピングを抑制すると, ストレス反応が低減する(三浦・上里, 2002; 江口・濱口, 2018)。

そして, 共感性やストレスコーピングには家族コミュニケーションが密接に関連する。浅野ら(2016)は, 養育者の受容が子どもの受容認知を介して子どもの共感性を高くすることを指摘している。また江口・濱口(2018)では, 児童の主張性(自己表明・他者配慮)が回避的なストレスコーピングを抑制し, ストレス反応の低減に寄与することが示されている。つまり, 子どもの主張性を促す家族コミュニケーションをしている家庭の子どもの方が主張性を発揮しやすく, その結果, ストレス反応を低減させるストレスコーピングを行いやすいと考えられる。よって, 家族コミュニケーションにおいて, 養育者が受容的であると子どもが認知し, 主張性が促されると, 子どもの共感性及び適切なストレスコーピングの選択が促進されると考えられる。また, 親の関わり方をモデルとした学習が生じることによって, 間接的に子どもの共感性が高まったり, ストレス低減において適切なストレスコーピングを促進したりすることも考えられる。

ところで, 養育態度を受容的であると認知する要素として, 温かさを感じる養育者の応答性が重要であると考えられる。また, 家族コミュニケーションは SNS 上にも展開されている(大橋・加藤, 2015)。そこで, 本研究では, LINE 上での子どもに対する養育者の応答性が子どもの共感性及びストレスコーピングにどのような影響を与えるのかを検討する。

方法

①予備調査 中学生を調査対象として, 家族 LINE の形態(頻度や参加している家族成員等)や LINE 上の家族コミュニケーション(方法や内容, 長所・短所等)を尋ねた。

②本調査 予備調査の質問項目及び結果を参考に質問項目及び選択肢を選定し, 中学生及び大学生を調査対象としてアン

ケートを作成した。質問項目は, 家族 LINE の形態・内容を尋ねた。また, 青年期養育尺度(内海, 2013), 児童用多次元共感性尺度(長谷川ら, 2009), ストレスコーピング尺度: PHRF 版ストレスコーピング尺度(杉山・児玉, 2010)を用い, LINE 上での養育者の応答性及び共感性, ストレスコーピングを尋ねた。

結果と考察

予備調査の結果, 家族のグループ LINE の利用頻度が少なかったことから, 本調査では, LINE 上でやりとりの多い養育者1名との個別 LINE に着目し, 個別 LINE における養育者の応答性がどのように共感性やストレスコーピングに影響を与えているかについて精査することを目的とした。

その結果, LINE で最も多くやり取りをする養育者は母親が多く, 頻度は週に数回程度ということ, また, 内容に関しては確認・連絡事項の共有が最も多く, 返信形式に関しては文字とスタンプの形式が最も多いことが示された。

また, 養育者の応答性が共感性及びストレスコーピングに影響を与えることが示唆され, 特に共感性においては視点取得と共感的関心, ストレスコーピングにおいては認知的再解釈及び情緒的サポート希求に養育者の応答性が影響を与えていることが示唆された。養育者の応答性が共感性に影響を与える結果がみられた理由としては, LINE 上での養育者の受容的な関わりを認知することによって, 子どもが他者の気持ちや感情を推測することを学習しやすく, また, モデリングの結果として, 視点取得及び共感的関心が高くなった可能性も考えられる。一方, 養育者の応答性がストレスコーピングに影響を与える結果がみられた理由としては, LINE 上での養育者の受容的な関わりを認知することによって, ①子どもは直面した問題や気持ちを言語化しやすくなる, ②支えられながら問題や気持ちを振り返って考えることができる, ③自分の悩み等について“聴いてもらえる”という意識を持ちやすい結果, ストレス状況に関して再評価・再解釈を行う認知的再解釈や, 感情表出や整理のサポートについて他者に助けを求める情緒的サポート希求というストレスコーピングをしやすくなると考えられる。

主な引用文献

浅野良輔・吉澤寛之・吉田琢哉・原田知佳・玉井颯一・吉田俊和(2016). 養育者の養育態度が青年の養育認知を介して社会化に与える影響. 心理学研究, **87**, 284-293.